

市民が主役の市政を実現する会

地域医療のあり方を考える市民学習会

～命と健康を守るために一緒に考えましょう～

日時 2024年2月11日(日) 13:30～15:30

場所 八千代市総合生涯学習プラザ(第1～第2研修室)

講師 岩澤 倫彦 さん(ジャーナリスト)



●プロフィール

- ・報道番組ディレクターとして、肝炎問題、救急、がん医療、脳死臓器移植、原発事故などのテーマに携わる。
- ・2003年、「血液製剤のC型肝炎ウイルス混入」スクープで、新聞協会賞、米・ピーボディ賞を受賞。
- ・2016年、関西テレビ「ザ・ドキュメントー岐路に立つ胃がん検診」を監督。
- ・近年は文春オンラインにて「東京女子医大の闇」を連載中。
- ・「やってはいけないがん治療」など著書多数。

講演の演題

かつてない危機を迎えた大学病院 ～医師の働き方改革で激変する地域医療～

- ・大学病院の派遣医師が支えてきた地域医療
- ・医師不足がより加速化する八千代医療センター
- ・東京女子医科大学の最新情報（警察の捜査と新たな疑惑）
 - ・がん医療の闇（タブー）とは？
 - ・自分の命を守るために今すべきこと

当会は八千代医療センターの医師不足・休診問題解決に取り組んでいます

20年前に「地域医療の中核病院」として約100億円かけて東京女子医大を誘致。大いに期待された八千代医療センターでしたが、約4年前から医師や看護師の離職が続き、慢性的な人員不足となり、とりわけ呼吸器内科、血液内科、リウマチ・膠原病内科、皮膚科、糖尿病・内分泌代謝内科は休診などで通常診療が出来なくなっています。

また、医療センターでは5科に限らず全体的な離職が続いており、日本医療機能評価機構認定病院でありながら、救急患者にも本来の役割が果たせなくなっています。その背景には東京女子医大の徹底した営利主義・強権支配という経営方針にあります。

なによりも一番困っているのは患者です。私たちが健康で安心して生活するためにも地域医療の中核である医療センターの健全な運営が求められています。「市民が主役の市政を実現する会」は、市長や市議会、県などに問題解決を要請するなど取り組みを継続しています。

●お問い合わせ 090(6473)3172(担当:三田)

主催：市民が主役の市政を実現する会